

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	内藤 三和子
2. 審査委員	主 査： 中村 浩一郎 副主査： 吉田 達弘 委 員： 勝見 健史 委 員： 余郷 裕次 委 員： 幾田 伸司 吉川 芳則（第13条第3項適用）
3. 論文題目	文学教育における演劇的手法に関する考察
4. 審査結果の要旨 教科教育実践学専攻言語系教育連合講座内藤三和子から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和7年7月7日（月） 9時00分～10時30分 場 所：zoomによるオンライン開催 1. 学位論文の構成と概要 序 章 第1章 戦後国語教育における演劇的手法 第2章 主体性を育む大村はまの劇化指導 第3章 「対話」に繋がる演劇表現の日常性 第4章 「対話」を志向する演劇的手法の実際 第5章 文学教育における演劇的手法の目指す方向 終 章 本研究では、文学教育における演劇的手法に関して、学習者の主体性と対話性を保障する効果的な授業づくりのあり方を明らかにした。 2. 審査経過 先行研究・実践などを多面的に分析・検討し、演劇的手法から得られた学びのありようを示しながら、主体性、対話性の観点から申請者自身の実践も踏まえ検証、考察しており、座学中心に陥りがちな中学校の文学の授業に関して、一部の研究者や実践者では価値が認められながらもなかなか進展しなかった演劇的手法を用いた実践研究への新たな可能性を拓いた点で本研究の価値は高い。なかでも劇化における「学びの共通点」を「対話」や、「対話」のある演劇的手法にも共通するものとして再構成し、「演劇的手法を用いることで生じる『対話』のメカニズム」として図示したことは、実践研究への指針になるものとして、高く評価された。 3. 審査結果 以上により、本審査委員会は内藤三和子の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。	